日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（総合政策学部）学部・(5) 年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回のボランティア活動で、被災された方のボランティアに対してのニーズが震災直後からして次のステップに移行されたと感じました。震災直後ではインフラの整備であったり、生活物資の需要であったり急務的な需要が高まっていましたが、今では雇用の創出であったり、地域経済の活性化であったり、多大な時間と人材を投資せざるおえない問題に直面しているようでした。過疎化問題に追い討ちをかけるかのような去年の震災、今後の支援活動は単発的に解決できるものは少なくなり、これからのボランティアワーカーに求められる需要は密着型の長期支援なのかもしれない。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回初めて被災地ボランティアに参加したので大島の事についてしか分かりませんが、大島に限って言えば、雇用の創出が先んじて行うべき課題であると感じました。そもそも大島の基幹産業であった水産業と観光産業は震災後の壊滅状態から前の状態に戻すまでに3年と 10 年という長いスパンがかかると推測されています。また、福島の長引く原発事故により発生する風評被害は無視をできない問題として、前の大島の姿に戻ったとして海岸線沿いのあの場所に前のように観光客が訪れるかどうかは保障されないものとなっています。そのため、復興と風評にひと段落がつくまでに補助金以外で生計を立てる必要があります。

しかし、学生である私のできることには限界があり、雇用の創出に関してはまったく知識も人脈もありません。そのため、私自身が被災地に対して力添えできることといえば、周囲の友人、知人、または明日出会う誰かに対して被災地の現状と課題を周知し、少しでも被災地の厳しい現状に対して共感を促すことで、風化しつつある被災地支援の国民意識を絶えず呼び起こしていくことが身の丈大の支援であると今は考えています。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

大島に関して進言させていただきます。観光産業復興にしろ、水産業復興にしろ、他県の方の長期的な人的・経済支援は必須であると考えています。しかし、物事に風化が存在し、他県に住む人々にとって煩雑な日常の中で被災地の記憶は忘れがちになってしまいます。少しでもその風化する記憶に歯止めをかけるためには、定期的なイベントを催し、島に足重に彼らを通っていただくことが一番ですが、現実問題そういうわけにはなかなかいきません。そこで、大島のホームページに島のイベントの告知、また、イベントを催したあとにはその行事の写真を掲載し、また、掲示板などで外部の方もコメントを書き込め双方的なコミュニケーションを図れるページをつくることが重要であると考えます。このことにより、大島でこれから行う活動を外部に発信し、島の宣伝効果とイメージアップを狙い、観光産業を復活させる一手となりえると私は考えております。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

今回このような恵まれた機会を与えてくださり、淺野代表様には感謝しています。今後この気仙沼での経験を第三者に発信し続けることで、長期的な被災地支援の礎を守り続けていたいと考えております。再度重ねるようですが、このように最高の条件でボランティアワーキングを行える機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。

気仙沼大島でのボランティア活動報告書

商学部　３年

今回 GW 期間において中央大学で気仙沼市大島にボランティアに参加したことを通して私は様々なことを実際に見たり聞いたり感じたりして学ぶことが出来た。初日は移動日であったが、大島行のフェリー乗車前に気仙沼市の海岸付近を見学した。ボランティアに行く前まではテレビなどの報道では「被災地はもうある程度復興してきている」と言われていたので気楽に考えていたのだが、実際に現地を目の当たりにしたときはあまりの現実離れした状態にただただ、何も言葉が出なかった。建物の窓や１階はほぼ全滅。崩壊したまま放置されている建物の数、津波到達時刻であろう２時４６分で止まっている壁にかかった時計、路肩のところどころに大量に積まれた瓦礫の山、折れ曲がり役目を果たしていない家の柱、海の中に半分沈んでしまっている橋、１階部分が流されてしまって２階部分だけが残っている建物。本当に私の住んでいる町との違いに戸惑い津波の恐ろしさを初めて体感したように思える。２日目は大島の主要産業である「椿」の苗植えを手伝った。椿は津波によって全滅してしまったらしく、完全に椿産業および漁業が被災前と同じように復興するのは１０年かかるそうだ。「１０年」なんて言葉にするのは簡単かもしれないが、実際に過ごすとなると嫌になってしまうほど長い期間である。それでも自分たちの住む島のために汗を流しながら毎日作業をする島の人々は都会では見られないくらい熱心で必死であったように思えた。３日目は大島の中にある日本の海の中で２番目の快水浴場と言われていた「小田の浜海水浴場」の清掃を行った。ただ遠くからこの海を見ると本当に水も美しく、白い砂浜があたり一面に広がって本当に素晴らしいものである。しかし実際に近づいてみるとここもまた「被災地」であることを思い知らされる場所であった。十分広いと思っていた砂浜も現地の方に話を聞いてみると津波によって面積が３分の１になってしまったのだそうだ。その日、私は海岸を清掃する係だったのだがそこに落ちているごみが他の海岸とは違うのである。「家内安全」のお札や仏壇のろうそく、養殖に用いる浮やバケツや壺、洗濯籠など明らかに津波によって流された「家財」であった。ほかにも全滅した養殖に用いられていたのであろう牡蠣の貝殻も大量に砂浜に埋もれていた。これだけでも十分津波の恐ろしさを実感するものではあったが、私が一番驚いたのは砂浜を掘る係の人のところへ様子を見に行った時であった。掘る前はあたり一面ごみはあるもののそれ以外は何も見えなかった。しかし砂浜を深く掘れば掘るほど「木」が出てくるのである。最初は「木が流されたにしては短いな」くらいに思っていたがよく考えてみると「折れてしまった家の柱」なのだ。しかも清掃活動にしても２０人で一斉に何時間もやったにもかかわらず、たしかにごみの山は大量にできたが、海岸を見渡すときれいになった場所は海岸のほんの一部であった。それを実感すると同時に悔しい思いをした私は、ふと「何時間もやってこれだけしか進まない復興作業なのに１年で「ある程度片付く」わけがない」ということが改めて身に染みた。だからこそ今は現地の日とも言っていたが「お金」よりも「人の手・知恵」が現地では求められているのである。今回の活動ではテレビの中でしか見たことのなかった「私の中の現実ではありえない現象」を実際に見ることによって痛感し、いかに 3,11 から一年自分が他人事として受け止めぼんやりしていたのかを思い知らされる結果となった。・・・しかし私はそれでも良いと思っている。これで私も「気づけた」のだから。

今後の被災地支援のために、今私ができることはなによりもまずボランティアに行く前の私と同じ

考えを持っている、いわゆる「無知」な人に被災地の現状を伝えることだと思っている。そのためFacebookなどのソーシャルネットワークを大いに活用し現地の写真などを周りの人に見てもらい、感じてもらうことが「復興」への第一歩につながるのではないだろうか・・・。それだけではなく、現地の人が言っていた「復興までの10年間」を私もまた現地の人と少しずつでも関わりながらサポートしていきたいと強く思っている。その為に出来ることとしては義捐金を定期的に出したり、またボランテア活動に積極的に参加することだと思うので同じ日本に住む仲間として歩み寄って生きていきたい。

支援へのアイディアとしては、２つ挙げられる。１つ目は次回中央大学の募集するボランティアに参加する人のために実際に行った私たちが「説明会」を開き、心持ちなどを先に伝える事である。１日目の椿を植える活動では目標が明確でなかったために少々全体の気持ちがゆるんでしまう場面があった。その為その日の反省会では「ボランティアとしての意識」や「目標を明確にすること」「ニーズとの食い違いを生み出さない」といった反省面が挙がった。しかし私たちが次回の参加者にこの実体験の反省を先に伝えておくことによって次の参加者の「気持ちがゆるんでしまう時間」を削ることができると思うのだ。それだけではなく、活動中に工夫したアイディアなどを伝えることによってより効率の良い作業方法を次回参加者に伝えることが出来るので私たちが最初に経験した「試行錯誤る時間」をも削ることが出来ると思う。２つ目は生協などの協力を得て、より多くの人に対しボランティアの広告活動を行うことである。せっかく学校がボランティアを募集しても現状としては「周知」がされていないのである。もっと多くの学生にボランティア募集の存在を知ってもらうことによってより多くの人の手と知恵を現地に届けたいと思う。

最後に、今回の被災地ボランティアを企画してくださいました淺野代表には、このような企画を通して私たちに貴重な経験をさせていただきましたことを心より感謝申し上げます。代表によって収得しましたこの大きな経験を絶対に無駄にはせず、復興への第一歩として今後も精一杯被災地の方と歩み寄ってお手伝いをしていきたいと強く思っています。本当にありがとうございました。

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（文）学部・(3) 年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

恥ずかしい話ながら、被災地支援に限らずそもそも「ボランティア活動」をすること自体ほとんど初めてと言っていいほどだったので、申し込む時点からとても不安で緊張していた。誰かと一緒に申し込んだ訳でもなかったため周りに 19 人の参加者がいても一人ぼっちで始まったボランティア活動の行程だったが、行きのバスやフェリーに乗る時点で友達が出来、最終日には女の子の参加者全員と仲良くなれるまでに至った。何より参加者 20 人の連帯というのがすごかったなと思った。友達と一緒に申し込んだという人でも参加者のほとんどは見知らぬ人たちであるのに、実質たった 2 日間の活動を通してあれほどの連帯感が生まれるというのは初めて体験したように思う。「一丸となって、被災地のために・大島のために」というのがしっかりと感じられた。誰も、適当な気持で申し込んだ人はいないように思えたし、中大生ってしっかりした良い人たちなのだなぁと思った。

被災地に対して、ボランティア活動に対して。初日にバスの中から見た気仙沼市街の、瓦礫も何もない殺伐とした様子は却って凄惨だった。写真や映像では何度も見ていたものだが、実際にその中に身を置くと(バスの中ではあったが)まるで感じ方が違う。それは写真や映像が風景の一部を切り取ったものであるのに対し、実際に現地で見ることはそれらがひとつながりの大きな世界・風景であることを否応なしに見せつけるものであるからだろう。まるで昔から何もないことが当たり前であったかのような風景だった。この後、この地域はどうしていくのだろう？という思いが胸を占めた。また大島へ行く途中の海が異様な茶色をしていて、フェリーを待っていたときにときどきした異臭はこの海の臭いだったのかなと思った。瓦礫のさびや漏れ出した油などが原因なのかもしれない。大島での椿山整備と海岸清掃のボランティア活動では、微力ながらも自分が今している作業が大島にお客さんを呼び寄せる手助けになっているのかと少し嬉しく喜びを持って活動していた。椿の木を植えることがいつか出来る素敵な椿園の一部になるのだ、ゴミを拾うことで日本第 2 位以上の砂浜を取り戻せるのだ、と常に思っていた。いつかまた手伝いをしに、また遊びに来たいと思った。旅館の若旦那さんからも貴重なお話を伺うことが出来た。震災当時の映像は胸が詰まる思いで見ていたし、村上さんのお子さんが心優しい人におにぎりを分けてもらっておいしそうに食べていたという件には堪え切れず涙が流れた。生きるとは何なのか、家族とは、人とのつながりとは、また亡くなった方への思い、あとに遺された人達の心境など、改めて考えさせられることがたくさんあった。私自身震災当時は栃木県の実家におり、大きく揺れている最中は本当に死ぬかもしれないという思いでいたし、家の中は物が倒れたり落ちたりしてぐちゃぐちゃになり丸 1 日 2 日ほど電気も水も止まって本当に大変な目に遭ってきたと思っていたが、そんなものは取るに足りないことだったのだと思い知らされた。そして、せいぜいスーパーの募金箱に小銭を入れたことが 1 度だけあるくらいで今まで何の被災地支援もしてこず、ほとんど震災前の生活に戻ってきたことに慣れて被災地のことなど忘れかけていた自分が恥ずかしかった。現地の人々は 1 年以上たった今でも戦い続けているというのに。今年の 3 月 11 日に簡易ながら友達と一緒に黙祷をしたときには「もう 1 年か」という思いでいたのだが、実際に現地に行くと「まだ 1 年しか経っていないのか」という思いがした。それほど現地に行って見てきたもの、聞いてきたことは生々しかった。自分の目で見たもの、話で聞いたことを忘れないで、これからも復興・再生に向けてのお手伝いを例え間接的にでもしていかなければならないと強く思った。残念なことにそうそう何度も現地に足を運ぶことは出来ないので、今いる場所からでも出来ること、ささやかでも微力でも自分に出来るこ

とは何か、考えなければならない。

最後に、私がこのボランティア活動に申し込んだ理由はいくつかあるのだが、そのうちの一つに「中学時代の恩師から成人式の日に「教師になるなら学生である今のうちになるべくボランティア活動に参加しなさい」と言われたこと」がある。それはもしかしたら履歴書に書けるからとか少し邪な捉え方も出来るし、ボランティアに行く人の中にはそういう考えで向かう人もいるのかもしれないのだが、私自身はそういう捉え方はせず、教師になるからには様々な経験を積んでおくべきであるから、机上では学べないことを自身で学ぶ必要があるから、そのような理由で先生はボランティア活動に参加するようご指導くださったのだと思った。被災地支援のための活動であることはもちろん第一だが、私にとってこの初めてのボランティア活動は、自身のための学習・成長の機会でもあったというように捉えている。初めの段に書いたように、初対面の集団の中で機能することや、皆で問題を見つけ解決していくこと、協力し合い共に働くことで生まれる連帯感、人の良いところを見つけることなどを、活動を通して学ぶことが出来たし、また被災地に関する知識が増え理解がさらに深まったように思う。

私自身が学んだことや成長したことが将来に生かされ、それがまた長い目で見た被災地支援になるようにしていけたらなと思う。とても有意義でかけがえのない貴重な4日間だった。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

細かいことしか思いつかないが…まずは、身近な人々に自身がこの活動を通して見てきた被災地の現状を伝えること。百聞は一見に如かず、是非現地に行って一度見てみてほしいと強く勧めること。ボランティアでなくても、観光や遊びに行くのでもいいから行ってみてほしいと言うこと。

被災地産の物品を購入すること。遊びに行くこと。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

中央大学においては、やはりボランティアセンターの設置が必須だと思う。今日も「そんな企画があったなんて知らなかった」と友達から言われた。文学部生は文学部棟の立地上、学生課からの案内に疎い。せめて、学部事務室付近にボランティア募集専用の掲示板を設置してほしい。被災地で復興支援の催し・イベントが行われるなら、そこでサークルや部活の発表やライブを行えるよう手配するなどは出来ないだろうか。各々そのような活動をしている団体はあるとは思うが、この企画のように補助を出すとか、そうでなくても参加できる被災地復興イベントの紹介をするだけでもさらに多くの人の被災地支援への興味や関心を引くことが出来るのではないか。例えば今回「椿まつり」の話を伺ったが、そこに中大で枠をもらってサークルなどが出演する、とか。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

学生側にお金がかからず気軽に参加できてしっかり活動できる素晴らしいボランティア活動を企画して下さり、本当にありがとうございました。気仙沼市大島での4日間はとても良い経験になりました。参加して本当に良かったと思います。今回のように全額補助でなくても良いので、また企画していただきたいなと思います。また参加します。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（総合政策学部）学部・（3）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

ボランティア活動を参加するのは今回で初めてです。とにかく被災地に行って、自分が出来ることをしようと最初単純に思いました。大地震や津波から一年を立った、今どのような状況なのかを自分の目で確かめました。建物を流された後に残した痕跡やガレキの山は依然として街角にあります。本当の意味での復興はまだ時間をかかります。みんなの智恵を出してまちづくりをしなければいけないと思いました。個人的な進歩だとチームワークの重要性も感じました。みんなで協力して事業を進めることが出来ました。（作業する時思ったことでしたが、ボランティア団体バラバラで作業するのは効率が悪いことを感じました。海岸の掃除なら、海岸の管理者のところに、毎回活動した内容や反省することなどを書いたら、今度同じ所を掃除する団体にとって作業が進めやすくなるではないかと思いました）

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

長期的な目標の必要性を感じました。町は将来どういう風になるのかを全員にわかってもらった後、ボランティア之募集も作業もスムーズに進めることが出来ます。

現在の大島は観光産業を中心として復興するつもりです。そのため、多くの人に来てもらえたいと主催者が言っています。「これからの復興は戻りに戻るより、以前を超えなければいけない」。以前を超えることでどういうことなのかずっと考えました。日本国内の市場だけでは狭い気がしました。勉強不足で浅いかもしれないが、「国際的な島」を考えています。豊かな自然条件に加えて今回の津波事故、外交客は島でゆっとりと休みながら震災の悲惨さを感じ、自分のためもなります。グローバルマーケティングについてこれからもっと勉強したいと思います。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

微力でありながら今回のボランティア活動を中国のブログで書くつもりです。一人でも多くの人にこの島のことを知って貰いたいです。その他、学祭で「椿の油」を出すアィディアも出たので、そこの手伝いもしたいです。学生でありながら、学生が出来ることをしたいと思います

4．今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回のボランティア活動に参加する機会を頂いてたくさんのことを習いました。本当にありがとうございました。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（経済）学部・（3）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

３・１１の震災から一年以上の時が経ち、被災地に関するニュースが全然入ってこない中で今回被災地を訪問することになりました。1年以上が経っているのにもかかわらず、自分の中で想定していた以上に復興が進んでいなかったことにかなり衝撃を受けました。住宅の基礎部分だけがいまだに残っている理由や現地民同士の軋轢、被災した村上さんの生の話等、今回ボランティア活動をしなければ知れなかったあれやこれやを知れたことは大きな収穫だったと思います。自分のこれまでの被災地像を一新できたことは自分の後学のためにも大きなプラスだったと思います。３・１１があったことで時計が止まったようになってしまった現地の人が大勢いることを考えると今までの生き方を改めなければいけないなと思いました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地支援のためにできることは頭の中で「東日本大震災」という物語がもう終わっていると思い込んでいる人々にもっと被災地の現状を知らせることだと思います。また、お金がたまればまた現地に行きたい

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地に旅行に行くことこそが募金よりも簡単に現地に届き、尚且つ効果が高いことをもっとアピールするべきじゃないかと思う。大学のサークル合宿の合宿先の誘致とかもできるのではないかと思う。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

今回はこのような機会をご厚意によって与えてもらったことにとても感謝しております。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（商）学部・(3) 年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は今回初めて被災地ボランティアに参加したのですが、やはりメディアを通じて知るのと、実際に行って自分の目で見るのとでは、全然違う印象を受けました。まだまだボランティアを必要としている人はいっぱいいるし、立ち直ることができていない人も大勢いるということを、改めて実感しました。

私たちは、最初に椿園を作るお手伝いをしましたが、予想以上に重労働で地道で、正直先が見えないような作業だと思いました。でも、私たちが普段通りに生活している一方で、被災地の方々は、復興のためにそのような作業を日々繰り返し行っていたということ、そしてこれからも続けていかなくてはいけないということを思うと、私は、今の生活に感謝が足りていないことに気付かされました。また、もっともっと被災地のために力になりたいと思いました。

次に、私たちは海岸の掃除をしましたが、その時に生活用品のようなものが落ちているのを見てとても心が痛みました。私たちと同じように過ごしていたはずなのに、その普通の生活が一瞬にして壊れてしまったんだと思い、とても悲しかったです。村上さんに、3.11当日の津波や火災の映像を見せていただきましたが、怖くてとても直視できませんでした。

東日本大震災が起きてから、もう1年が過ぎ、以前に比べて関心が薄れてきている人も増えてきたと思いますが、いまだに電気の通らないところで暮らしている方や、仮設住宅で暮らしている方がたくさんいるというのが現実です。だから、もっと多くの人が、被災地の復興と再生のためにボランティア活動に参加してくれるといいなと思いました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

かつて、多くの人々が訪れていた海岸の掃除や、観光地の清掃をしたいです。大島に限らず、東北はとても素敵な場所なので、また多くの観光客が訪れることができるような場所になってほしいです。また、がれきの受け入れをできるところはどんどんするべきだと思います。

直接東北に行くことができない人は、募金やチャリティー活動に積極的に参加してほしいと思います。私も、被災地から目をそらさず、そういった活動に進んで参加したいです。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地の名産品の販売や、観光地の紹介

被災地の現状の報告会

フリーマーケットやバザーを開いて集まったお金を寄付する

4．今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回このような企画をしていただいてありがとうございました。以前からボランティア活動に参加したいと思っていたので、浅野さんのおかげでとてもよい経験ができました。たくさん勉強になることがあったので、機会があったらまた参加したいと思います。そして大島はとても素敵なところだと知ったので、これからも、この素敵な場所を守っていくためのお手伝いができたらいいと思います。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（文）学部・（3）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は今回このボランティアを通じて、初めて被災地に行きました。そこで見たものは津波で流されてしまった建物やその跡、さらに多く積み上げられた瓦礫でした。震災から1年が経過しましたが、再生はあまり進んでいるとは言えず、まだまだ多くの課題が残っていることを実感しました。

今回私が行ったボランティア活動は椿の苗木を植えることや海岸清掃でした。これだけだと震災ボランティアといえるのだろうかと心のどこかで感じていました。しかし、これらの活動は大島の観光再生に大きな影響を与えることがわかり、テレビで見るような瓦礫撤去以外にも被災地の役に立つことができるのだと、とてもやりがいのある活動ができました。このようにすぐに結果が出なくても長期的な目で見たボランティア活動もとても重要であるということが今回強く実感したことです。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

瓦礫撤去はこの1年で随分と進み、この点では我々ボランティアはあまり活躍することができず、より細かいレベルでのボランティアが必要であると感じました。今回のような観光再生も多くの人々の少しずつの力でやっていくことが重要です。多くの人々が訪れてくれるような地にするために、ごみ清掃、植樹、さらには被災地で何かしらのイベントなどを行い、地域活性に協力することが今後必要になってくるのだと思います。また、最近ではあまり話題にならなくなっていますが、募金活動も継続的に続けることが必要です。今回のボランティア活動も信行寺の方々への募金金から成り立っているものですので、これからもそのお金は多くの場所で必要になってくるはずです。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地の方々の心を豊かにすることも必要であると思いますので、幼稚園や老人ホーム、またはそのような人々の集まる場所でレクリエーションを開催するなどはどうでしょうか。（ある程度のスキルがなくてもできる、ビンゴゲームやふれあいなどで楽しく遊ぶなど）

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

今回はありがとうございました。ボランティアという企画がないと一人では被災地に行けなかったので、とても助かりました。被災地を自分の目で見ていろいろ思い、仲間たちといろいろ語り合ったことはとても良い経験でした。やはり実際に行ってみないとわからないこともたくさんありました。このことを多くの人々に伝え、被災地に対する意識を高めることが私のこれからの役目だと思っております。本当にありがとうございました。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（　法　）学部・（　3　）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回初めて被災地ボランティアに参加しました。参加のきっかけは、私自身被災地出身で、大地震の時は東京におり、被災地の状況についてはメディアを通してしか知りませんでした。実際に自分の目で被災地の今を確かめたいと思い、今回ボランティアに参加しました。気仙沼の市街地を見てここが街だったのか、とても言葉がでませんでした。実際に活動した大島の印象は海がきれい！でした。海岸の清掃活動をして、この海岸でもう一度海水浴をするにはまだまだ時間がかかると思います。けれども、多くの方にこの海で泳いでほしいと思いました。今回のボランティアが実際に被災地のためになっているのか、とても不安でした。「現地の人、一人一人のニーズに応えることは難しいこと。役に立てているかを考えるのではなく、やっていることが大事であり、被災地の現状を知ってほしい、この現状を一人でも多くの人に伝えてほしい。震災から一年経っても地震のことを忘れないでほしい。」お世話になった方のこの言葉がとても心に残りました。このボランティア活動のことを多くの方に伝えられればいいと感じました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回は椿園の再生、小田の浜海岸の清掃活動でした。現地の方から震災についてお話していただいて思ったことは、心のケアが大事だということです。今後私は仮設住宅をまわり、被災した方々の心のケアをしてみたいと思っています。私は人と話をするのが好きなので、世間話や震災の話などたくさんお話をしてみたいと思っています。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回椿園の再生ということでたくさんの椿の木を植えました。椿まつりも開催されており、現地の特産品をもっと多くの方に知っていただきたいと思いました。イベントを多く開催するのもいいと思います。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

今回大学生の私たちにボランティアの機会を与えてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。大島のボランティア活動で自分自身多くのことを吸収することができました。このことは今後の人生にプラスになることだと思います。本当にありがとうございました。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（　法　）学部・（３）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

震災から一年を過ぎてもなお被災された方々の傷は癒えておらず、被災地もまだまだ復興の途中という状況を実感しました。現地の方の貴重なお話を聞かせていただいたり、写真や映像を見たりして震災直後の悲惨な状況を改めて知り、突然故郷や家族、友人を失った悲しみに強く胸が痛みました。この震災を誰もが忘れてはならないし、全国民が力を合わせて被災地の復興に何らかの形で関わる必要があると感じました。そこでボランティアに参加した自分達に今後何が出来るのか、また現地の今現在の状況をどう周りに広めていけばいいのかと考え、自分達が被災地や被災者のために何らかのアクションを起こす必要があると感じました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

自分達がボランティアで経験したことや、被災地の現状について多くの人々に知ってもらうべきだと思います。私はまず身近なコミュニティに広めていきたいと考えています。さらにポスターを作成したり、活動内容が書かれた広告を掲載したりしてさらなる周知を図りたいです。またボランティアに参加したくても手段が無くて参加できない人もたくさんいると聞いたので、そういった人たちのために中央大学はボランティアセンターを設置する必要があると感じます。必要であれば署名活動などにも参加したいです。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

・被災地の状況や、ボランティア活動をしている写真の展覧会を開く。

・現地の方とスカイプなどのテレビ電話を繋いで講演会を開く。

・イベントの活動内容が書かれたポスターやチラシを作成して目のつく所に貼ったり配ったりする。

・今まで被災地支援活動に参加した人などを募ってボランティア団体を結成し、経験者たちが活動することで作業の効率化を図る。

・ボランティアセンターを設置して学生がボランティア活動に参加しやすい環境を作る。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

今回、気仙沼ボランティアを企画していただいてありがとうございました。私のようなボランティアをしたいのにどう現地で活動すればよいのか分からない学生にとって、とても良い機会、環境を提供して下さり深く感謝しています。ボランティア活動をする際にもとても素敵で温かな雰囲気の宿に宿泊し、快適に安全に活動に専念することができたと思います。現地の方のお話を聞いたり見たりして被災地の現状も知ることができました。今回のような貴重な体験をすることが出来たのも淺野代表のおかげです。本当にありがとうございました。この経験を生かして今後も被災地支援に関わっていきたいと思います。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（法）学部・（3）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

気仙沼での視察で見た光景は今でも、鮮明に覚えている。大きな船が陸に打ち上げられたままの状態であること、1階部分が津波で流され、鉄骨がむき出しになっている状態、家の基礎が丸出しになったままの状態であること、整備されていない道路等、1年という時間は確実に経っているはずであるのに、未だに震災の影響の甚大さというものを思い知ることのできる状態であった。その光景を見て、1番はじめに思ったことは、大学生にできることはどんなことがあるのであろうかということである。すなわち、人が運ぶことのできるような瓦礫の撤去はすでに終了しており、あとは建物の基礎をどうするのか、残された建物をどうするのか、道路の整備はどうするのかということが問題となるのであり、大学生が関わることが困難な問題で、専門家に任せなければならない領域の問題であると考えたからである。大学生ができることは限られているのではないかということを踏まえて、大島へ向かった。このようなあいまいな意識があったためか、1日目の午後は相手方のニーズに十分に応えることができなかったと考える。なぜならば、椿を植えるという明確な目的があったにもかかわらず、午後は雑木の処理等という不明確な目的であったため、どこかあいまいなまま作業に取り組んでしまったためである。私は普段からサークルでボランティア活動に参加しているが、改めて、ボランティアというものの難しさを知った。すなわち、相手方のニーズに合わせたボランティアをすることの難しさ、大切さを改めて痛感したのである。この点を踏まえ、2日目の活動にあたった。2日目は海岸の清掃を行った。反省を生かし、活動に取り組むことができた。

このように、現地で出た課題をグループで話し合い、改善できた点は自己にとって、非常によかったものと考える。現地では、相手方のニーズは多様化しており、そのニーズに対応することは今後のボランティア活動においても重要であると考えたからである。また、この4日間を通して、私は初めて現地の方の声を聞くことができた。映像を見ながら、説明をしていただき、今までニュースでしか見たことがなく、他人事かのように捉えていた自分が非常に情けなく思った。と同時に、その波の迫る臨場感、波の勢いの恐ろしさに言葉が出なかった。現地の方にとっては忘れてしまいたい過去である震災の映像に関し、解説をしていただいて、改めて震災の恐ろしさを学ぶことができたので、感謝している。そして、「現状を伝えてほしい、忘れないでほしい、復興は進んでいるように見えるかもしれないが、人々の心の中の時はあの時から止まっているということを」と、おっしゃっていた。そのとき、このたびのボランティアにおける相手方のニーズが現状を多くの人に伝えることであると知った。気仙沼を見たときに感じた疑問はそのときに解決したように思える。私たちにもできることが確実にあるということである。すなわち、ここで感じたこと、現状を少しでも多くの人々に伝えていきたいと考えている。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今後、被災地支援のためにいかなることをすべきか。前述のとおり、「現状を伝えてほしい、忘れないでほしい、復興は進んでいるように見えるかもしれないが、人々の心の中の時はあの時から止まっているということを」との発言からすると、このたびの被災地支援の目的の一つには、「現地を知ること」、そして、「現状を周りに伝えること」ということが挙げられると考える。そこで、今後、私たちは、友人等に現地へ行き感じたことを伝え、この震災のことを忘れないようにすべきであると考えられる。

具体的には、今日発達している情報発信ツールであるFacebook、twitter等を活用して、多くの人々に

情報を伝えていくことができると考える。この方法は、実践が容易であり、情報を容易に広げることができるという利点があるからである。実際に、東京に戻ってから、Facebookに被災地へ行って、ボランティア活動をしてきた旨を伝えると、多くのコメントが寄せられた。これから、現地で撮った写真にコメントを付し、情報を発信していきたいと考えている。このような情報発信は簡易な方法として挙げる事ができる。また、情報が伝わる範囲は限られてしまう。そこで、不特定多数の人に情報を伝えるために、写真展の開催をすべきであると考える。現地で多くの写真を撮ってきており、これを活用することができると考える。そして、写真に対してコメントを付すことにより、より効果的に情報を伝達することができると考える。ここで、写真展が開催された際に、写真展に来てくれた人が少なく、日時の告知をいかにすべきかという問題があった。ここでも、facebook、twitter等のSNSを活用するとともに、ビラ配りをすることで、多くの方に興味を持っていただきたいと考えている。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

前述のとおり、瓦礫撤去に精を出すという以前の主たる活動における大学生のニーズは減ってきており、今後いかなる支援をすべきかが問題となる。今回の活動中、大島、気仙沼にも多くの仮設住宅が目についた。夜に行われた説明の際、仮設住宅がすべてなくなったのは震災から１７年後であって、今回はこの期間よりも長くなるのではないかとおっしゃっていた。仮設住宅では不便な生活が伴うことが考えられる。それが２０年近く続くことが予想されるとすれば、精神的にも疲労が伴う。また、人々のときはあの日で止まったままであるとおっしゃっていた。町の状況がいかに改善しようとも、人々の精神的な疲労、悲しみが消えなければ復興したとはいえないのではないだろうか。とすれば、仮設住宅に住む方々に向けた支援が今後、必要性がさらに高まってくると考える。そこで、仮設住宅の人々への精神的援助が考えられる。具体的には、仮設住宅の生活に疲弊する人々と話をすること、一緒に何らかの活動をし、リフレッシュをしてもらうことである。大学生としても、人とのコミュニケーション能力の欠如が嘆かれている今日、そのような能力を高めることができる機会を提供することができると考えられる。とすれば、大学生にとっても学びの場とすることができる。もっとも、かかる活動には問題点も存在している。中でも、一番の問題点は、大学生がコミュニケーションを取らせていただく人たちは震災、その後の仮設住宅での生活により、精神的に傷を追っている人々であり、言動に配慮する必要があるということである。そこで、事前の講習会等を数回設け、そこで、現地の人々に対する配慮を学ぶ必要があると考える。このような事前の講習を積み、人々の精神的援助をしていくことができると考える。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

この度、ボランティア活動に参加することのできる機会の提供、また、金銭的援助等、全面的なサポートをしていただきありがとうございました。ニュースの映像等で被災地を見たときには、どこか遠いところの出来事かのような気持ちを持ってしまっていたと思います。その点で、自分には現地の人への配慮、震災への危機意識を欠いていたと思います。

しかし、今回、現地へ行き、むき出しになった基礎、陸に打ちあがった船を見たとき、１年経っても、このような状況であるということを知ることができました。そして、現地の方々から、「現状を伝えてほしい」、「忘れないでほしい」と言われました。これから、自分は現地の状況を伝えていきたいと考えています。現地へ行き、知ることができてよかったと考えています。今後も被災地のために役立つことができればと思います。本当にありがとうございました。

以上

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（法）学部・（３）年

１．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

震災から一年が経って、被災地についてメディアが取り上げる機会も落ち着いてきている中で、今回の活動に参加するまではテレビや新聞で見聞きした情報通りの状況を想像していました。しかし、実際に気仙沼市や大島の現状を目の当たりにして言葉を失いました。一年が経っても生活の基礎となる産業などがあまり復興しているとはいえない状況で、ボランティア活動として直接ガレキを撤去したりというマイナスからゼロに戻す作業ではなく、現在はゼロから再生するための活動が主となっていることを知りました。

被災地で生活していない私たち自身も今被災地がどういう問題を抱えどういう目的のもとどういう活動が行われているのかを正確に把握することが重要だと感じ、それを伝えていくことが私たちの責務だと感じました。

２．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地に従来のような平穏な生活がもどるためには、生活の基盤となる産業の復興が重要であるように感じたので、人が訪れ少しずつでもまちが活気づいていくように観光地としての魅力や名物品などのアピールがこれからの被災地支援には必要となってくるのではないかと思います。

私としても微力ながら実際に目にした気仙沼の現状や魅力などを周囲に伝えていくことで次の人的支援に繋げていき、そこからまた次の人々へと繋がっていけばと思います。

３．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

祭りの告知のビラや現地に赴きやすくなるような参加観光ツアーなど。

４．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

このような素晴らしい機会を提供してくださり、大変感謝しております。私は前回この活動に参加した知人から今回の活動の存在を知りました。これも淺野代表はじめ信行寺さんの継続的なご支援があったからこそ実現したことで、とても恵まれていると思いました。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（法）学部・（3）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

わたしは今回のボランティア活動を通じて、わたしが被災地について何も理解していなかったということを思い知りました。テレビや新聞を通じて、わかった気になっていただけでした。実際に行ってみると、津波の爪痕の甚大さや、被災された方の思いを肌で感じることができました。被災地のボランティアというと、がれきの撤去や炊き出しを思い浮かべることができませんでしたが、現在はニーズが多様化し、変化し、観光産業の創出など、段階が移り変わっていくということを知りました。自分が実際に行ってみる、というのはとても重要なことだと感じました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

椿荘の村上さんがおっしゃるように、わたしたちに最も求められていることは「知る」ことだと思います。わたしたちが被災地の現状、ニーズ、その土地の人々の思いを知らない限り、被災地のために行動し、必要とされる支援をし、復興再生へと繋げていくことができないからです。そこで、わたし個人としては、Facebookを活用し、国内にとどまらず海外の友人にも今回の活動や被災地の現状、村上さんのお話から学んだことを自分の言葉で表現し、少しでも「知る」ことに役立つように発信していきたいです。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回のボランティアを通じて、実際に被災された方自身が、被災体験や被災地のニーズのことをはじめ、東日本大震災に関するあらゆることを「知り」そして「忘れない」でいてほしいと伝えてくださることが多くのメディアとは比べものにならないほどの大きな説得力・影響力があり、わたしたちを動かす力を持つと学びました。（実際に、初日の活動と村上さんの被災体験をお聞きした後の２日目の活動とでは、わたしたちの取り組み方や活動する姿勢が全く違い、よりよいものとなりました。）このことから、実際に被災した方に大学等にお越しいただき、講演を通じて、より多くの人々の震災についての理解を深められるようなイベントが、被災地の復興支援に効果的に繋がっていくと思います。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

わたしは常々、被災地ボランティアに参加したいと考えてはいましたが、かえって被災地の方々に迷惑をかけてしまわないだろうか、わたしなんかが力になれるのだろうか、などという思いがあり、また、ボランティアへ参加するための各団体の敷居も高く、なかなか参加への一歩を踏み切れずに時間だけが過ぎていました。そんなときに今回のボランティアの募集に出会い、恵まれた環境の中で、貴重な体験をさせていただくことができました。このようなすばらしい機会を与えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（法）学部・（3）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

大まかな瓦礫の撤去はほとんど終わり、次は経済復興へと段階が進んでおり、現地のニーズも徐々に変化してきているということを知りました。ニーズの変化に伴って、僕たち学生が直接現地のためにできることはなくなってきているのではないかと最初は考えました。しかしそうではなく、まだまだできることはあるだろうし、なによりも「知る」ことが大事だと思います。直接復興のためになにかできなくても、震災を風化させないようにすることや次の震災のための教訓にすることも僕らの重要な役割で、そのためにも現地の状況を知り、伝えることが特に重要だと感じました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

とにかく伝えるということが一番重要だと思います。まずは自分の身近な人でも、現地のこと、今回知ったこと、感じたことを伝えることはするべきだと思います。またボランティア活動をする際には、現地のニーズを理解することが重要だと今回の活動で感じたので、現地のニーズを知ることも重要だと考えます。さらにニーズを理解することが重要なんだ、ということも伝える必要があると思います。

大島に関して言えば、大島は元々観光業が基幹産業の一つであり、現在は復興が進んでいるので大島に旅行に行くということ自体が経済復興につながると大島の方がおっしゃっていました。それに関連して、被災地に旅行に行くことは気が引けるものですが、「旅行が経済復興につながる」ということを伝えたいです。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

ゼミ、サークル等の合宿で利用してもらうために、安く利用できるようにする、ということなどすでにあるようなものしか思いつきませんでした。しかし宿が安く利用できるようになっているようですが、知っている人はほとんどいないと思います。なので、すでにあるものの周知を図ったほうがよいかなと思います。

4．今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

ボランティアに行きたいという気持ちは以前からずっとありましたが、なかなか実行できずにいました。今回、浅野代表の企画をきっかけとしてようやく一歩が踏み出せました。今回の活動は自分にとってとてもプラスになりました。今回機会をいただいたので、今回の活動をきっかけに復興活動その他につなげていきたいと考えています。このような企画をしていただき、また参加させていただき本当にありがとうございました。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（総合政策）学部・（3）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

震災から1年が経って、ボランティアとしての役目も変わってきているのだと実感しました。私にとっては初めての被災地支援のためのボランティアの参加でした。当初想像していた瓦礫撤去等の仕事ではなく、実際に行った活動は、新しい観光スポットとして立ち上げた、ツバキを使ったプロジェクト、ツバキ園設立に向けたツバキの植林。そして、海水浴場の（小さな）ゴミ拾いでした。

人が住める状態には戻り、今度は大島の生活基盤であった観光地にもう一度戻そうという動きの中での活動でした。並々ならない時間と労力を必要とするものと思います。まだまだ、ボランティアとして出来ることはまだまだたくさんあるのだなと感じました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

現地の方に話を聞いたところ、やはり必要としているものは「お金」と「人手」。ボランティアでも観光でもいいから、とにかく大島に来てくれということでした。私たち学生には、お金に余裕のあるという者はそう多くありません。ボランティアに行きたいという者は多くても、金銭的な負担から、それを断念する者は少なくないはずです。だからこそ、学校としてボランティアに力を入れていくということが必要だと思います。機会を与えてくれるだけでなく、金銭面的な補助も必要です。まずは中央大学に、今は無いボランティアセンターを立ち上げること。なぜ無いのかというところに根本的な疑問を感じますが、これ無くしては学生として活動がしづらいという現状があるのではないでしょうか。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

文化祭の収益を一部被災地への募金に回したり、被災地支援のためのブースを大きく設けるなど、既存の学内イベントから支援に繋げていくことが、一番実現し易く、影響も大きいものではないかと思います。

4．今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

素晴らしい経験をさせて頂きました。本当に感謝しております。今回の経験を自分の中だけに留めず、広く広報していけたらと思います。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（　法　）学部・（　3　）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は今回のボランティアに参加させていただくまで、東北の被害の状況、また現在の課題など、全くといっていいほど無知であったのだということを痛感しました。テレビや新聞などで入ってくる情報を見聞きするのと、実際に現地に行って自分で体感するのとでは自身に入ってくる情報量にも沸いてくる感情にも比べ物にならないほどの差がありました。そして、現地の方もおっしゃっていたように、一人でも多くの人に、こうした被害を生で感じてほしいと思いました。

私なんかがボランティアに行って、地震で被害にあった方の力になる働きなんてできるのだろうか、と活動に参加するまでは疑問に思っていました。しかし、私一人ではたいした力にはならなくとも、今回参加した20人でみると、多少なりとも力となることができたのではないかと思い、今回参加したことに少し自信が持てた気がします。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

ボランティアに行くことで、力になれるのはごくわずかだけれど、そのボランティアで学んだことをこれからの生活に活かす事で、ただボランティアに行く何倍もの貢献が出来るのだと習い、まさしくその通りなのだと感じました。

私は今回の活動で、大島の方は今の大島の現状をより多くの人々に知ってもらい、地震から1年経った今でも復興への支援を必要としていて、元のような生活を送れるようになるまではまだ果てしない時間がかかるのだということを理解し、継続的な支援をしていってほしいと思っていることを知りました。こうした思いを形にするためにも、友人へ伝えたり、ボランティアに継続的に参加したりするなどの身近にできることから、取り組んでいきたいと思います。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

一学生にできることには限りがあるので、身の回りにいる友人、知人に東北の現状を伝えることから始めていきたいと考えています。また、すでに行っている方もいるようですが、支援物産展や写真展に協力していくことや、学外でも活動している多くのボランティアに積極的に参加して行きたいと思います。

被災地をめぐる（擬似）ツアーなどの企画もできたらいいのかなと思います。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

私は今まで、ボランティアに行こうと思ってもなかなかタイミングをつかめず、漫然と過ごしていました。そんなわたしがこのボランティアに参加したのは、4月の始めに仙台へ旅行に行ったのがきっかけです。やはり、復興が早いといわれている仙台、松島などの観光地区もまだまだ震災の爪あとが残っていて、本当に津波の被害があったところは一体どうなっているのかと思いました。

東北の現状を肌で感じ、大島の方々と触れ合うことのできる本当に貴重な機会をご提供いただき、心から感謝しています。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（　法　）学部・（1）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

東日本大震災から1年が経った今でも現地はかなり厳しい状況であることを自分の目で確かめることができてとても貴重な経験だった。テレビで見て漠然と思っていた以上に、現地の人々は瓦礫しか残っていない街を復興させようと努力していると感じた。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

何よりも自分の目で見て感じたことを、少しでも多くの人々に伝えることが大切だと思う。そして、私の話が直接現地へ足を運んでもらう契機となってもらえるとうれしい。ボランティアに行ってきた私たちにできることは、できるだけ多くの人々が1年前の出来事を忘れないように伝えていくことだと思う。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

ボランティア・現地復興活動を積極的に募集し、現状を理解してもらえるようにすること。

4．今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございます。まだ1年生ですが、これから自分と真剣に向き合い、浅野先輩のように社会に貢献できるように頑張っていきたいと思います。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（　法　）学部・（　3　）年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

一番強く感じたことは、震災から一年が経ち、街からがれきが撤去され、少しずつ復興が進んでいますが、被災した方々は、心に大きな傷を負ったままということでした。

誰が悪いわけでもなく、普通に暮らしていた方々を襲った震災は、非常に残酷なもので、将来を考えるにあたっても、大島においては、漁業と観光という二本柱を失い、非常に厳しい状態にあるということも知りました。

また、自然の大きな力とは、対照的に、私たちができることは、本当に小さなことでした。砂浜の清掃では、翌日にまた新たなゴミが漂着していました。けれども、そのようなことを続けるのが大切で、必要なことだとわかりました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地に行った人が、その現状や被災した方々の想いを、周りに伝えていくべきだと思います。また、それをしたいと思います。

被災地の方々のことを想い続けること、忘れないようにすること、それは、実際に気仙沼でお会いした方々も一番に願われていたことでした。確かに、一年がたち、私も含め、震災の記憶は徐々に薄れてきていたのかもしれません。メディアでは、被災地について頻繁に取り上げられていますが、そうではなく、身近な人の言葉で語られた方が、きっと聞く側に大きな影響力を持つのではないでしょうか。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

私は、被災地と支援する側の継続的かつ密な関係が必要だと考えています。そのためには、砕けた表現ですが、ファンクラブのような制度があれば良いのかと思います。会費は、制度運用のほか、支援金に回します。

わずかな期間しか滞在しませんでしたが、今回、私が訪れた気仙沼大島は、非常に自然が綺麗で、好きになりました。例えばそんな気仙沼大島に、私たちが植えた椿の木は、どんな花を咲かせるのか、椿園はどんな姿になるのか、非常に楽しみです。そういった情報を定期的に発信してもらえたら、私たちもより一層、大島に対して強い想いを持ち続けることができると思います。

支援する側も、被災地が復興していく姿を感じることができれば、より一層、被災地支援も活発になるのではないでしょうか。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

震災以来、何か力になりたいと考えていましたが、何をしたらいいのかわからず、なかなか一歩が踏み出せないままでした。被災した方々のために出来たことは、本当に小さなことでしたが、実際に自分の目で見て、現地の方から生の声を聞くことで、たくさんのことを感じ、学んできました。それらを自分なりの言葉で、周りに伝えていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

以上

日程：2012年4月30日（月）～5月1日（木）

GW気仙沼市大島でのボランティア活動　活動レポート

（経済）学部・(4) 年

1．今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私自身被災地へのボランティアは二度目でしたが、やはり行くたびに考えさせられるものがありました。今回、行かせていただいた気仙沼大島は、がれき撤去以上に観光産業の復活を必要として地域であることを知りました。約 1 年たった現在でも、爪痕は残っていましたが、これから復興へと元の大島以上の大島にするために皆が頑張ろうとしていると強く感じることが出来ました。元の漁業、観光業を行うためには、約 10 年かかるとおっしゃっていて、まだまだやるべきことは数多くあるのだと痛感しました。私は震災当時のことから多少目をそむけていたと思います。実際にお話を伺い、なぜこうなったのか、今はどうなっているのか皆が知っていくことが必要だと感じました。そして、ボランティアをやらなくとも、少しでも現状を見て、観光してほしいとおっしゃっていたのを聞いて、現地のニーズと私たちが考えていることに食い違いが生じているのだと感じました。私の周りにも被災した方がいます。その方もおっしゃっていましたが、ボランティアでいってやってやるという気持ちでは来てほしくない。生半可な気持ちでやってほしくないとお聞きしました。行動するだけではなく、もっと真剣に考えてやらなければこのようなことはやってはいけないですし、行ってもいけないのだと感じました。

2．今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今後、被災地支援のためにFacebookやtwitterを通じて私にいる身近な人たちに被災地の現状を伝え、感じたことを少しでも知ってもらいたいです。また、被災地への最初のボランティアから約 4 カ月経ちましたが、現地に行って感じたことを少しずつわすれてしまっているのに気付きました。大学 4 年生ということで比較的時間がある中、また時間を作り、現地へ行き、自分自身が出来ることをやっていきたいと思います。

3．被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

気仙沼大島と中央大学はつながりがあるとお伺いしました。だからこそ、大島の名産品であるツバキ油を大学で販売し、大学の提携先として利用してもらえるようにしていく必要性があると思います。サークルで利用するだけでも現地を知る機会にもなりますし、観光業にも貢献できるのではないかと感じました。大学の学生に周知させるためにも、図書館などの１階スペースを使い、今までの活動内容を展示し、報告書が見られるような環境を整えていく必要があると思いました。

4．今回、企画してくださいました淺野代表に、一言お願いします。

今回このような企画をしてくださいまして、誠にありがとうございます。実際に行き、行動し、見ることで感じ取れることが数多くありました。一学生として、時間的余裕がある中、何が出来るのか考え、実際に行動していきたいと思います。

以上